

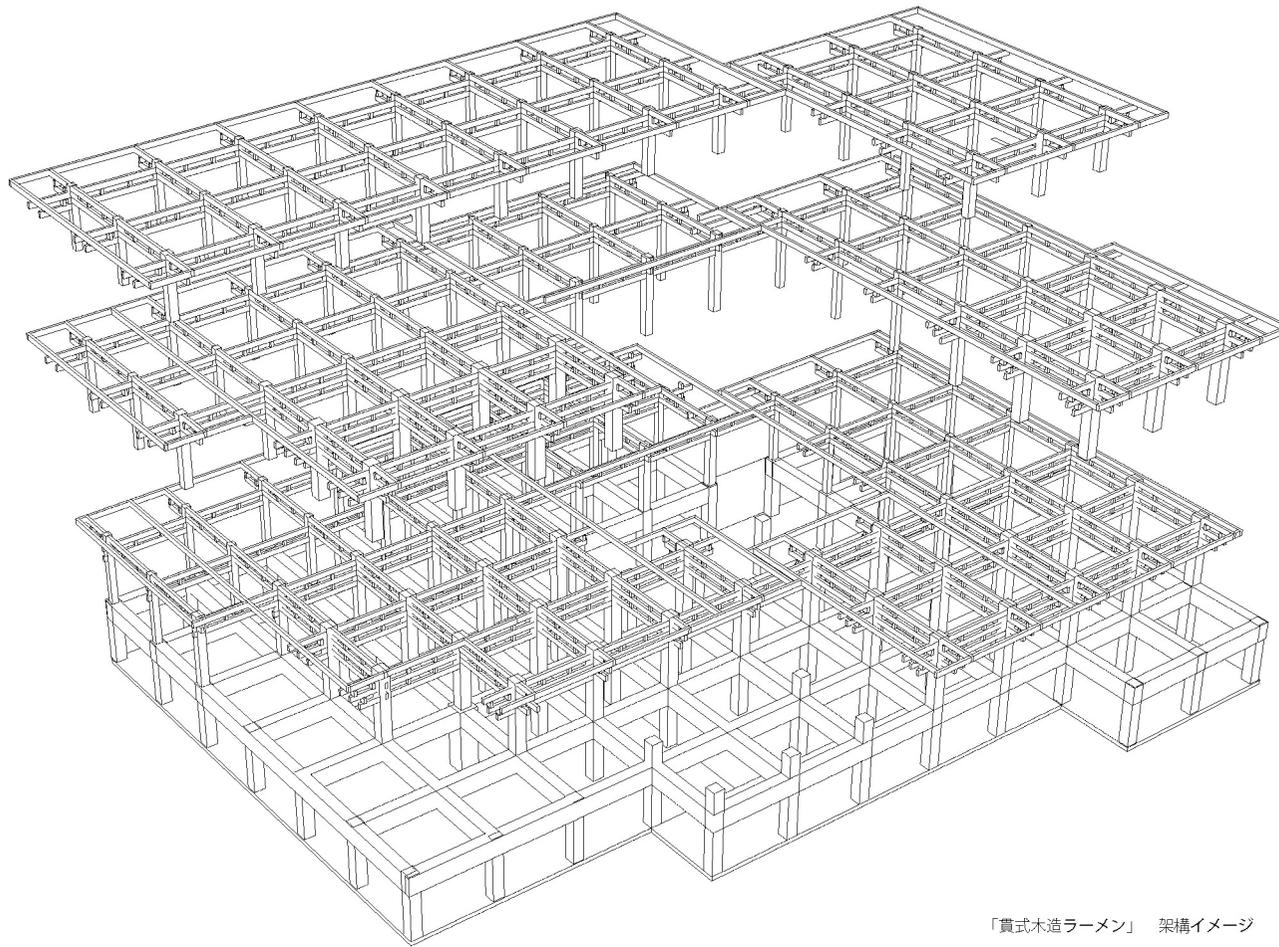


“しよく場”

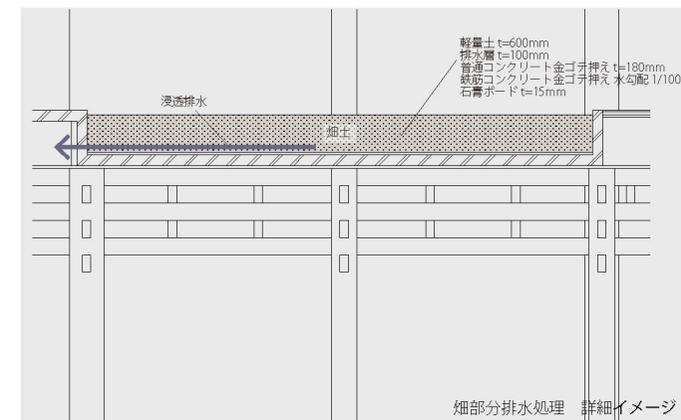
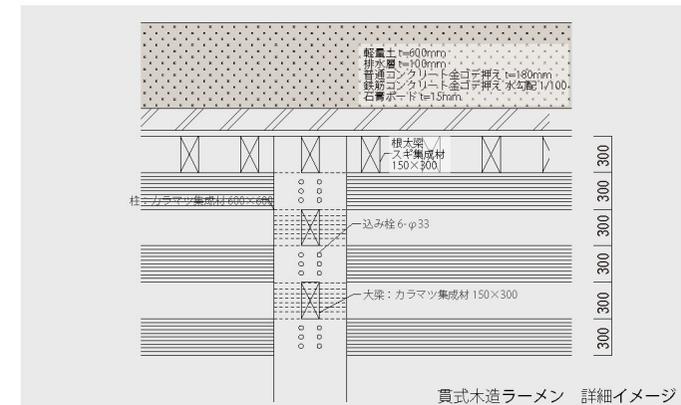


COVID-19 が流行する中、
様々な生活様式が見直された 2020 年。
これまで、「働く場所」「食べる場所」は、
明確に区別されてきた。

私たちの生命活動にとって必要不可欠な
「食と職」を表裏一体なものとして捉えなおし
新しい働く場所を考えた。

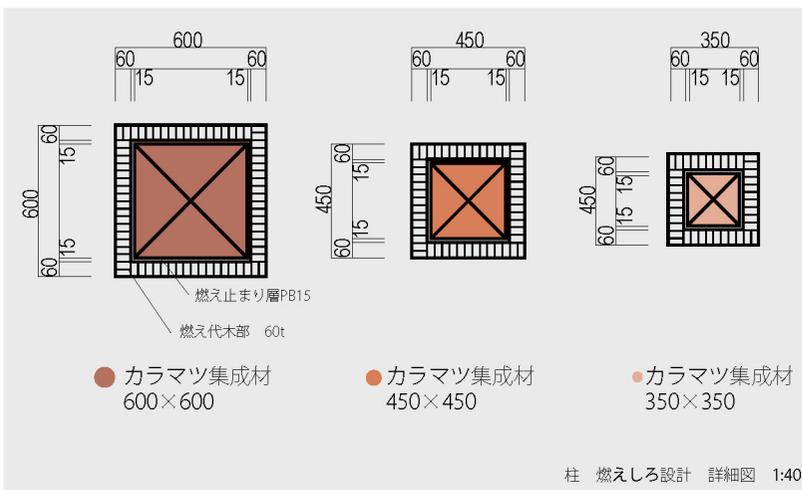


「貫式木造ラーメン」 架構イメージ



■構造計画

「貫式木造ラーメン」は、水平材として150×300角のカラマツ集成材を使用しており、4段ないし6段積み重ねて構成する。さらに土畑の土による長期の積載荷重を考慮し、カラマツを使用した柱においては3つのスケール体系を設定した。それぞれの柱は、土畑が存在する南側にかけて柱の寸法を大きくとるようにして配置している。また、畑部分の工夫として大切なのが「排水処理」であり、本提案では畑底面で浸透排水できる設備を設け、水勾配をとって端部で処理する方式をとる。

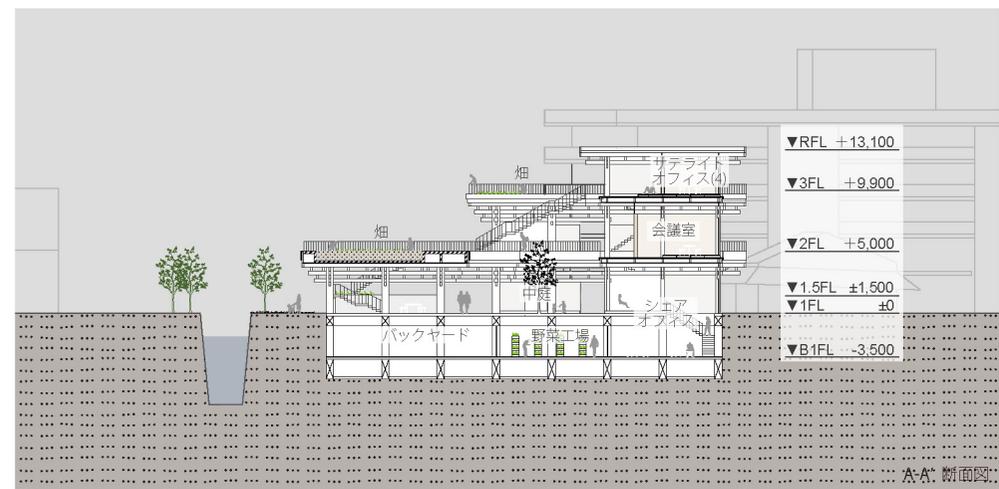


■提案の特徴

敷地近隣には、所澤神社、薬王寺といった所沢の歴史を象徴する建築物が存在している。戦前・戦後においては、将校たちの歓楽街として賑わいを見せた背景もあり、新旧入り混じるコンテクストの延長上にこの建築の在り方を位置づけようとした。そこで、構法のアイデアで歴史的側面を表現しようと考え、寺社仏閣建築に見られる貫構造と現代的なラーメン構造をハイブリッドさせて考案した、「貫式木造ラーメン」を採用した。

■防火・耐火計画

1時間イー1準耐火構造とする。柱に関しては、それぞれ燃えしろ部分、燃え止まり部分を設けて荷重支持部である芯材を保護している。





西側アプローチ部分から見る。



中庭はこの建築を訪れる人々の滞留場所。



シェアキッチンから外部の土畑が見える。



サテライトオフィスに外部の様子が映りこむ。